

# 第16回モスサミットが開催されました

12月19日に第16回モスサミットが開催されました。生徒・保護者・教員の三者が3つのテーマについて、活発に話し合いました。話し合われた内容は、三者で持ち帰って検討し、実施できるものについては実現されます。今回のサミットについては、生徒・保護者・教員の三者のほかに、助言者として岩手大学の先生や、学校内外の方々もオブザーバーとして多数参加しました。



保護者

私は見ました。松園町の交差点で。点灯して3人が自転車を下っていて、「止まれ」なのに止まらずに、横から車が来て、声を出してびっくりしてる生徒を。自転車で乗ってる人がヘルメットも被らずに体も生身なので、あそこでパニックになってたらどうなったのか。やっぱり怖いですね。



生徒

(生徒側としての対策は) 中央委員会に出して、それをホームルームに持って行って、委員長などからクラスみんなに呼びかける。



生徒

中央委員会からクラスに下るしてもあまり関心ない人もいる。「死にたくない」って思うような人が出てくるよう、クラス全体で話し合うという時間は取るべきだと思います。

## 協議題1 自転車の乗り方について



保護者

(モスサミットについての) アンケートの中で、ある保護者の方から三沢高校の生徒と(車で)接触したという事案がありました。自転車の乗り方、それからヘルメットについて、今日このことを皆さんと一緒に話したいと思いました。(来年の春から)自転車の違反に「青切符」が切られます。これには反則金がかかります。携帯電話使用しながら12,000円、信号無視で2,000円、無灯火5,000円、2人乗り3,000円。ヘルメットが努力義務になりました。三沢高校の皆さんがこのヘルメット努力義務についてどう考えているのかなとアンケートをしてもらいました。「いいことだよ」とか、「必要だなんて思う」という部分があったんですけど、いっぽうで「ヘルメットを置くところがない」「正直私はヘルメットを『努力』したくない」「髪型が乱れるので嫌だ」などの(否定的な)意見もありました。また、「自分だけがヘルメットを着用するのは気まずい」「周りからダサイと思われる」ので「努力義務ではなく義務化すべき」という意見もありました。



生徒

やっぱり、周りの目を気にしてヘルメットを着けない人は、ほとんどだと思います。僕もそういう意識があります。学校独自のルールとして、義務化というのは考えるべきなのかなと思っています。



教員

(ヘルメットを)置く場所については各教室の後ろにロッカーがあるが、現状、教科書等が大量に入っていて、更にヘルメットを入れるという状況にはない。検討していくのは重要だと思います。



教員

(ヘルメットを)義務化すれば、やりやすいのかもしれないが、自分の命を守ることなので、義務化は考えない。この先みんなが高校出てからのこと考えて、自分で身を守ることを考えていかないといけないと思います。



保護者

反則金の(行為の)なかで私、僕、もうすでにやっているというの何か、ありますか。例えば、イヤホンつけたまま自転車乗ってるとか。



生徒

並走してました。気をつけます。

## 協議題2 新制服の着用について



教員

生徒会から校長先生宛に要望書が提出されました。内容は①来年度の2・3年生も新制服を着用するようにしてください、②新制服を着用できるようになった場合は、卒業式等での制服の統一をしないことにしてください、というものです。教員の方でもそれ以前から会議を重ねてきて、いろいろ意見交換を進めていたところでした。保護者にアンケートを取った結果、賛成が69パーセント、反対が23パーセントでした。自由記述で様々な意見をいただきました。「自由に選択するすべきだ」という意見や、「買える人と買えない人が出てしまうと、困るから絶対にやめてほしい」という意見(が多かった)。生徒のアンケートでは、「選べるようにした方がいい」が23パーセント、反対に「今の制服で統一した方がいい」が14パーセント、「わからない」と未回答が半分以上。(自由記述では)様々な意見が出ていたが、反対意見もそれなりにあって、「統一した方がいい」という意見が思いのほかあったのが意外だなと思いました。



生徒

生徒側のアンケートも保護者側のアンケートも見たんですが、反対側の意見に必ず制服を全員強制的に買わなきゃいけないと思っている人が多くいる。その説明から始めると賛成派が少し増えるのではないかなと思いました。



生徒

もし(旧制服が)壊れた場合にどうしても買い直さなきゃいけないってなった時に、この今着てる古いやつは売ってないってなるとどうしても買う必要が出てくるので、2・3年も新しいのを買えるようにする必要があったと思います。

今、買えないという話があったんですけども、業者の方に確認したところ、古い方の制服も対応できるし、新しい方にしても、どちらでも業者さんの方に対応できるということでした。



教員

式典の時とかは制服が混在していても、それは特に問題はない感じなんではないでしょうか。

保護者

学校側としては、それは構わないという見解です。生徒の方のアンケートで統一すべきだっていうふうなのが意外に多くて、ちょっとびっくりしております。



教員

男子が（新旧の制服を）合わせるのには成り立つとは思いますが、女子がこの（スカートの）形でポロシャツとかを合わせることは難しいと思う。女子の方がどうしても制服代が圧倒的に高いので、じゃあ全部買わなきゃいけないの？みたいになるかもしれない。親としては（お金のことが）気になると思います。



生徒

（子どもが）3年生ですけども、もし1・2年生だと考えるとちょっと買ってあげられないです。金銭的にも。



保護者

## 頭髪検査について

頭髪検査の必要性という提案について、その理由と影響を説明させていただきます。本提案は校則の否定ではなく、教育的効果をより高めるための進化です。理由は3点あります。第1に、本校の校則は生徒の判断を尊重する方向へ変化しており、運用もそれに合わせるべきだからです。第2に、検査を苦痛に感じている生徒が実際に存在し、人権侵害とも言える事態を無視できないからです。第3に、検査の日だけ守るという構造が「見られている時だけ守れば良い」という意識を生んでいるからです。廃止により、生徒は納得して自分を律する自主性を育み、先生方は本来の業務に注力できるなど、双方に大きなメリットがあります。今後は対話を重視した新しいガイドラインを作成し、一人ひとりと向き合う指導を通じて、安心できる学校づくりを目指します。



生徒

校則ってなんのためにあるんですかですか？生徒が自主的に作っていかないと、どこか抜け道探しながらではなく、その辺は自分たちでルールを決めてやるっていうことはできるのかなと思います。



保護者

そもそも校則がなくなった。今の2年生までは（生徒手帳に）細かい校則がいっぱい書いてあったけど、今の1年生には4行ぐらいしか書いてない。今まで頭髪検査では「ルールだからダメ」って言われてきたが、今は（校則が）これしかないの、先生方もルールだからとはもう言えない。こっちも極度な加工はしないし、ある程度の規範は守っていく自覚、覚悟はあります。



生徒

過度な接触とかがあった上で、嫌な思いをしてしまう人への対応はしっかりしてほしい。メンタルが弱い人とかは、先生にあんなことされたので不登校になりますとか、そういう人出ると取り返しのつかないことになる。頭髪検査をなくすこと自体が認められなくとも、先生方の指導の仕方は見直してほしい。



生徒

これはまずいなっていう生徒はほとんどいないです。頭髪検査ではなくて、授業に行ってパツと見て目につくぐらいだったら、これは（個別に）指導しなきゃいけないので、それで十分できるのかなっていうふうには、個人的には思っています。



教員

## 協議を終えて

学校生活をよりよくしていくためのアイデアや、私たちの意見をどのように反映していくかについて、3者で話し合えたことは、非常に意義のある時間でした。賛成反対を含め、様々な意見が出たことは、より良い学校を築いていく上で、とても欠かせないものだと思います。本日はモスサミットにご参加いただきありがとうございました。



生徒会長

今日みたいなこの協議っていうのはすごく大好きで、もう早くも来年どういうサミットになるのかなとワクワクしていました。今日はとても素晴らしい時間をいただきました。ありがとうございます。



PTA会長

いろんな意見はあるんですけども、できることとできないことがあるというのは分かってほしい。いろんな意見を出すことによって、アイデアは生まれるので、このモスサミットっていうのは意味があると思います。本当にいい意見を言ってくれてどうもありがとうございました。



校長先生

皆さんどうもお疲れ様でした。今年も色々なテーマ3つですけれども、感心しながら聞かせていただきました。各テーマの結論そのものより、そこに至る「プロセス」こそが重要です。ヘルメットや制服、頭髪の問題を巡り、なぜそれが議題となるのか、本質的に何を問うべきかをじっくり考えることが大切なのです。例えば、岩手県のある学校では、経済格差や多様性に配慮し、指定外の安価な服に校章ワッペンを貼ることで折り合いをつけました。このように、自分たちの思いを出し合い、先生や保護者と一致点を見出す議論が必要です。頭髪も同様に人権や幸福追求権に関わる切実な問題です。管理されるから守るのではなく、自分たちでルールを考え、納得して守る。もし守れない部分が出ればその都度話し合う。その積み重ねが、自分で責任を取る力や、他者とのズレを乗り越えて合意を形成する力を育みます。違いを前提に、お互いを理解しようと働きかけ、共に学校を作って いく。この試行錯誤の経験こそが、皆さんの将来の選択



助言者  
田代先生  
(岩手大学)

肢を広げる豊かな学びになると期待しています。

# Viva 生徒会 No.888

三沢高校生徒会 2026・1・29